

■委員会開催

- 第3回 2025年1月20日月曜日 18時から20時 Zoom

※適宜、Slackにて議論

■若手研究者への国際学会参加支援助成金

- 事務局と連携し、採択者への助成金の支払いは完了した。
- Webサイトへの報告は2025年1月31日であり、採択者全員が原稿を提出済みである。
事務局に原稿を提出し、Webサイトへの掲載を待つのみとなっている。

■セミナー

第1回「出る本・出た本」

本学会の会員である松本さんが「労働者協同組合とは何か」、李さんが「市民的コモンズとは何か」を出版し、科研費等の助成により、出版記念セミナーを開催する。これに、本学会も共催という形で協力する。

松本典子『労働者協同組合とは何か』（中央経済社、2025年2月）

李 妍焱『市民的コモンズとは何か』（ミネルヴァ書房、2025年3月）

科研費助成・駒澤大学出版助成作品

出版記念 セミナー

日本NPO学会 共催

3.5 水 | 16:00~18:00
駒澤大学図書館101

申し込みフォーム <https://forms.gle/qxPknSSZ4j7Gi4J88>

お申し込みは
QRコードでもOK



オンライン可&参加無料!!
終了後別途懇親会あり!!

セミナーの趣旨

市民社会の次なるステージに向けて、労働者協同組合と市民的コモンズ概念とリアリティを丁寧に追求します。2024年度の日本NPO学会研究大会シンポジウム「ローカルとソーシャルの間にある距離と可能性」の問題提起に、2冊が出した答えとは？

学会シンポの登壇者が再登場！



話し手・松本 典子
駒澤大学経済学部教授



話し手・李 妍焱
駒澤大学文学部教授



聞き手・都丸 一昭
コトハバ代表理事



聞き手・橋本 薫
前橋まちなかエージェンシー
代表理事

第2回「出る本・出た本」セミナー（案）

『入門NPOのガバナンスとマネジメント - ケースで学ぶ非営利の意思決定』晃洋書房（4/10 発刊予定）米国のNPO運営者向けの本の翻訳本の紹介とそれに関する議論など

- 日程：2025年4月17日（木）18時30分から20時
- 会場：オンライン
- 出演：石田祐（関西学院大学）、斉藤祐輔（宮城大学）、渡邊洸（カタリバ）、長谷川雅子（CSOネットワーク）
- 形式：報告を1人15分x4回、Q&Aをそれぞれ5分ずつ

国際学会参加支援助成金 採択者報告会

国際学会参加支援助成金に採択された方々に、助成の報告を兼ねて、それぞれの研究大会で発表した内容を、本学会向けに再演という形で行ってもらう。

- 日程：2025年5月31日土曜日14時から16時
- 会場：オンライン

- 出演：羅 歌、尾形紗希、許 晟源、寺下和宏、峯村遥香、一柳智子
- 形式：報告を15分x6回、Q&Aをそれぞれ5分ずつ（案）

■スタディグループ

本委員会には、次の企画草案が提示された。

- ・ 本学会の活動目的の一つである、研究者と実務家の連携を目指して、休止中のスタディグループの発展形としての、研究者と実務家の協働研究・活動への助成金を創設する。
- ・ 助成金を活用した研究や活動は成果物にまとめて、本学会の出版物として発行する。
- ・ 進め方としては、学術委員会で企画書を作成し、それを執行部にて検討を経て、理事会に諮る。理事会で承認が得られれば実施。来年度の計画・予算から目指すか？
- ・ 助成金の額や全体の規模にもよるが、事務局が必要になるかもしれない。NPOセンターに相談するべきか。

本件を議論した結果、委員会では次の論点が出された。

- 日本NPO学会の成り立ちを踏まえると、研究者と実践者が何らかの協働を行うこと、またそれを学会が促進することは重要である。
- ただし、研究者・実践者の双方が、スタディグループから「テイク」できるものを明確にしなければならない。

学術研究委員会は上記のとおり検討を行ったが、スタディグループは会員に参加してもらうものでありながら、会員の意見を十分に反映しているとは言えない。そこで、多くの会員が参加する研究大会（関西学院大学）にて、会員の意見を把握することを目的に、スタディグループに関するセッションを提案する。なお、現時点（2025年2月22日）で、本提案は企画委員会に提案済みである。

- テーマ：研究者と実践者双方にメリットがあるスタディグループのあり方
- 形式：ブレインストーミングを中心にした対話型。ファシリテーターは学術研究委員会の委員から選任する。
- 日時：大会期間中のいずれか
- 参加者数：20名程度（主に学会会員）
- 予算：本学会以外から講師を招かないため、予算は必要ないと思われる。